

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：83903

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H03915

研究課題名(和文) 軽度認知症者の社会参加促進による予後改善に向けた大規模疫学研究

研究課題名(英文) Large-scale epidemiologic studies on social participation and its association with health outcomes in people with early-stage dementia

研究代表者

齋藤 民 (Saito, Tami)

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・老年学・社会科学研究センター・部長

研究者番号：80323608

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では認知症者の社会参加と死亡リスクとの関連、社会参加と関連要因、地域住民による認知症者の社会参加への支援意識と関連要因を量的研究から検証した。その結果、認知症者の社会参加が予後改善に寄与する可能性、社会参加内容によって困難度が異なる可能性と介護力によらず社会参加を維持できる方策が求められること、地域住民の支援意識は低く、今後認知症者も含む地域の交流促進がその向上に有用な可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

認知症を対象とする知見の多くは医学的側面から検討されている。本研究では認知症者の社会参加に着目し、複数のデータを用いて、社会参加促進の根拠および社会参加促進の手がかりとなる知見を検討した。これらは国内外において高い学術的新規性を有するとともに、今後認知症者の社会参加促進を行うための、政策、公的支援、地域づくりのそれぞれの場において根拠となる資料として役立てられるものと期待される。

研究成果の概要(英文)：This quantitative study examined the association between social participation and mortality risk in people with dementia (PWD). It further examined social participation and its correlates in community-dwelling older adults with or without dementia as well as the community residents' perception of social participation among PWD and its correlates. Our findings indicate the following: 1) Social participation may contribute to improved prognosis in PWD. 2) Difficulties in social participation may depend on its domains. 3) Effective measures are required to maintain social participation among PWD, regardless of their familial care availability. 4) Residents' perception of social participation by PWD was not positive. However, this unfavorable perception may be alleviated by increasing social contact among community residents, including contact with PWD.

研究分野：疫学、公衆衛生学、社会老年学

キーワード：認知症 社会参加 大規模データ

## 1. 研究開始当初の背景

後期高齢者の急増に伴い、認知症の人やその前段階となる軽度認知障害 (**MCI**) の人の急増が予測されている (平成 **26** 年度厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業, **2015**)。認知症は生活機能や社会生活に支障をきたす疾患であり、症状の進行とともに就労や地域活動への参加が困難となる。一方、要介護認定を受けていない認知症者も少なくないため、地域からも公的支援からも孤立している可能性が否定できない。

健常高齢者では、社会とのつながりの実態やその心身の健康への影響について数多くの知見が示されてきた。しかし認知症に関する知見の多くは医学的側面から検証されており、認知症者の社会参加の実態や健康への影響、また認知症者の社会参加に対する周囲の理解等に関する疫学的検討は十分とはいえない。今後認知症者が社会と関わりながらより幸福に生きる方策を検討するため、更なるエビデンスの形成が重要と考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究では上記の課題意識を踏まえ、次の **5** 点を研究目的とした (研究開始当初)。

- (1) 軽度認知症者および **MCI** 者における社会活動参加がその後の死亡や要介護認定に及ぼす影響について縦断データを用いて検証する。
- (2) 社会参加の各側面において、認知症や要介護度の進行に伴い、いつ何が困難になりやすいのかといった特徴を記述的に明らかにする。
- (3) 認知症者の社会参加の関連要因を明らかにする。
- (4) 認知症者の社会参加に対する地域住民の支援意識の実態とその関連要因を明らかにする。
- (5) 以上に基づく教育プログラムを開発し、認知症者を支える住民や家族を対象と想定し予備的介入評価を実施する。

## 3. 研究の方法

### (1) もの忘れ外来受診者における社会参加と死亡リスクとの関連

国立長寿医療研究センターもの忘れ外来を **2010** 年 **7** 月 ~ **2018** 年 **9** 月までに受診し診断された **4952** 名を対象に、**2018** 年 **11** 月 ~ **2019** 年 **1** 月に郵送質問紙調査を実施し、**3731** 名について受診後の死亡状況と受診時データとの突合を行った。本研究では、**65** 歳以上、アルツハイマー型認知症 (**AD**) あるいは **MCI** と診断された者で、社会活動参加 (就労等の生産的活動および老人会などグループ活動への参加有無) 項目に回答する **1273** 名を対象とした。死亡まで日数をアウトカム、各社会参加変数を説明変数、調整変数を性、年齢、教育年数、家族構成、生活機能、抑うつ、アパシー、認知機能、併存疾患、診断名とし、**Cox** 比例ハザードモデルによる解析を実施した。

### (2) 社会参加の各側面と要介護度および認知症有無との関連

日本老年学的評価研究 (**JAGES**) が **4** 保険者と共同実施した、**65** 歳以上の要介護認定非該当 (自立高齢者) 男女へのニーズ調査 **2019** (**2019** 年 **11** 月 ~ **2020** 年 **1** 月実施) より得た **4770** 名のデータ、および **65** 歳以上の要支援 **1** ~ 要介護 **5** (要介護高齢者) 男女への在宅介護実態調査 **2019** (同時期実施) より得た **582** 名のデータを用いた。双方の調査には社会参加に関する共通項目を設け、比較可能なよう設定した。社会参加変数は「外出週 **1** 回以上」「友人・知人との交

流月 1 回以上」「地域のグループ活動への参加有無」とした。要介護度については、ニーズ調査対象者は自立とし、要介護高齢者は該当項目への回答から軽度（要支援 1～要介護 1）および中重度（要介護 2～要介護 5）に分類した。認知症有無については該当項目への回答に基づいた。ニーズ調査と在宅介護実態調査とでは年齢や性別分布が大きく異なるため、ニーズ調査データに在宅介護実態調査の年齢・性別分布を用いた重み付けを行い、性・年齢を調整した。

### (3) 在宅要介護高齢者における閉じこもりおよび社会的孤立の関連要因

上記 JAGES 在宅介護実態調査 2019 データを用いた。本研究では 614 名を対象とし、閉じこもりは「外出週 1 回未満」、社会的孤立は「友人・知人との交流月 1 回未満」とした。それぞれをアウトカムとし、要介護度、認知症（認知症生活自立度 IIa 以上）、介護保険サービス利用有無、保険外サービス利用有無、家族介護頻度、教育年数、婚姻、性、年齢を説明変数として、ポワソン回帰分析を分析した。

### (4) 一般成人における認知症者の社会参加に対する支援意識とその関連要因

全国 20 歳～69 歳男女を対象とするインターネット調査を 2021 年 9 月に実施し、1172 名の回答を得た。本研究では、認知症者の社会参加への支援意識について「認知症の人も地域活動に参加した方が良いと思いますか」「認知症の人や介護するご家族の居場所づくり活動に関わってみたいと思いますか」2 項目を用いて測定し、回答傾向から対象者をカテゴリ化した。当該カテゴリ変数をアウトカムとし、性、年齢、教育歴、婚姻、医療介護資格、学習経験、交流経験、介護経験その他を説明変数とする多項ロジスティック回帰分析を行った。

### (5) 認知症者の社会参加促進に向けた教育プログラムの検討

新型コロナウイルス流行に伴い、4)の調査実施が当初計画よりも 6 か月遅れた。そのため本研究期間内では、今後の方策の検討に留まり、実際の介入プログラム試行までを実施することができなかった。

## 4. 研究成果

(1) 対象者の平均年齢は  $78.9 \pm 6.3$  歳、女性 64.3%、AD が 74.2%であった。生活機能等さまざまな個人特性の影響を調整しても、地域のグループ活動に参加する人は参加しない人と比較して約 28%死亡リスクが低かった。生産的活動と死亡リスクとの関連は男女によって異なり、男性において生産的活動と死亡リスクとの負の関連がより強くみられた。一方、女性でのみグループ活動に参加する人ほど死亡リスクが低かった。研究成果を日本公衆衛生学会総会（2021 年）において報告した。

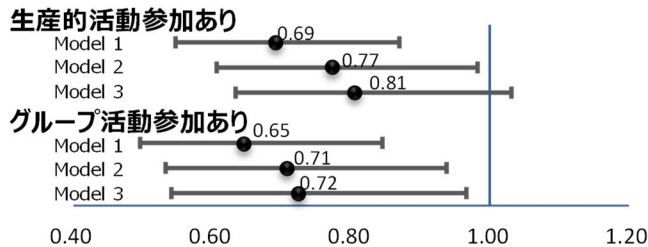


図1 2つの社会活動参加と死亡リスク

注) 数値はハザード比。Model 1:性年齢のみ調整、Model 2:共変量調整；  
Model 3:共変量+他方の社会活動変数調整

(2) 要介護者データでは、85歳以上が59.0%、女性が68.1%、要介護2以上の者が67.5%であった。自立高齢者データ(性年齢分布を補正済)、要介護高齢者データを用いて要介護度別認知症有無別にそれぞれの社会参加項目分布をみたところ、外出については明確な差異が認められない一方、月1回以上の友人・知人との交流有無では要介護度や認知症有無による違いが認められた。地域活動参加については、自立者と要介護者との差異が顕著であったが、自立高齢者群では認知症を有していても約4割の地域活動参加がみられた。ただし本研究の対象者中、認知症のある自立高齢者については、調査協力ができる人に限られるなどの偏りが否定できないため、結果の解釈には注意を要する。

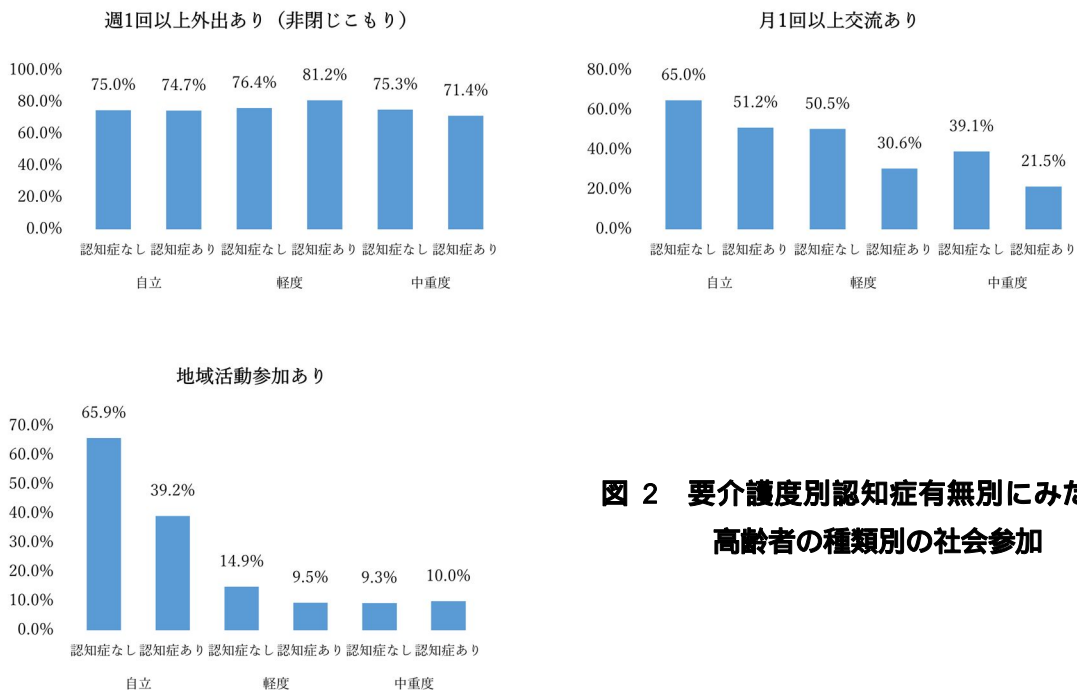


図2 要介護度別認知症有無別にみた高齢者の種類別の社会参加

(3) 対象地域における要介護高齢者の閉じこもりは、全体の約24%、孤立は約57%にみられ、いずれにも当てはまるケースは全体の約18%みられた。さまざまな個人特性の影響を調整しても、閉じこもりには家族介護頻度が関連し、「介護なし」と比較して「ほぼ毎日介護」では約68%、「週4日以下の介護」では約49%リスクが少なかった。孤立には認知症の有無が関連しており、認知症がある場合、ない人と比較して約32%孤立リスクが高かった。いずれも介護保険や保険外サービス利用との関連は認められなかった。研究成果を日本公衆衛生学会総会(2020年)において報告した。

(4) 解析対象の平均年齢は **44.9** 歳、女性が **50.1%**であった。支援意識 2 項目への回答を組み合わせた結果、「認知症者も地域活動に参加した方が良く、自身も支援活動に関わりたい(積極的支援群)」は全体の約 2 割、「地域活動に参加した方が良いが、自身は支援活動に関わりたくない(消極的支援群)」が約 5 割、そもそも認知症者は地域活動に参加しない方が良いと考える人(非支援群)が 3 割弱だった。さまざまな個人特性の影響を調整しても、消極的支援群と非支援群に共通して、積極的支援群よりも友人交流や認知症の学習経験が少なかった。さらに非支援群では、他者への信頼感が低く、認知症の人との交流経験が少なかった。本研究成果を国内学会において発表予定(登録済)である。なお以上の研究成果はいずれも速報値に基づくため、最終的に論文化の際には数値が変わる可能性がある。

以上のように本研究は、認知症者の社会参加を通じた予後改善、ウェルビーイング向上のための基礎資料となるいくつかの知見を明らかにした。第 1 に本研究では認知症や軽度認知障害診断後も社会参加しながら生活することが予後に良好な可能性が示唆された。他者とのつながりが認知症の進行を遅らせるとの知見もあり (Haaksma, et al., 2019)、より多様なアウトカムとの関連やメカニズム解明、介入研究等、更なる知見の集積が必要である。第 2 に社会参加の内容をみると、親族以外との交流や地域活動参加は認知症者でより困難な一方、外出は認知症有無や要介護度によらず比較的維持されている可能性がある。認知機能低下と社会的孤立との関連がすでに報告されている(東京都健康長寿医療センター, 2018)。本研究は横断調査を用いた相関研究に過ぎないが、社会参加内容により認知症や生活機能との関連が異なることを明らかにした。ただし外出維持には、家族の支援が不可欠な現状も示唆された。独居要介護者が増加するなか、介護力によらない支援のあり方を検討することが重要である。最後に、一般成人を対象とする調査からは認知症者の社会参加促進に向けた地域住民の支援意識は必ずしも高くないことが示唆された。

今後、認知症者の社会参加促進とこれを通じた予後改善・ウェルビーイング(自立や幸福)向上を図るため、地域、介護サービス、政策という多層での取り組みが重要といえる。本研究内では地域における支援意識向上の手がかりを得るべく、関連要因の検討を行った。その結果、支援意識の向上には例えば従来型の学習機会の提供だけでなく、認知症者を含む地域住民全体での交流増加や、それに伴う信頼感の醸成が有用な可能性が示唆された。地域で誰でも容易に参加できる居場所づくりや外出先整備が認知症者の社会参加やそれを支える人々の支援意識促進に有効な可能性がある。他方、本研究では介護サービス利用と社会参加との関連は全体として認められなかった。今後は介護事業所や地域包括支援センター等、認知症者を支える実践現場を対象とした実態把握や社会参加支援促進のための研究蓄積が重要だろう。

#### 【引用文献】

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業。日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究(研究代表者: 二宮利治)。 2015.

**Haaksma ML, et al. Predicting Cognitive and Functional Trajectories in People With Late-Onset Dementia: 2 Population-Based Studies. J Am Med Dir Assoc 2019; 20(11):1444-1450. doi: 10.1016/j.jamda.2019.03.025.**

東京都健康長寿医療センター.平成 2829 年度認知症とともに暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業報告書(研究代表者: 栗田主一)。 2018.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 17件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Saito T, Nishita Y, Tange C, Nakagawa T, Tomida M, Otsuka R, Fujiko Ando F, Hiroshi Shimokata H, Hidenori Arai H	4. 巻 -
2. 論文標題 Association between intra-individual changes in social network diversity and global cognition in older adults: Does closeness to network members make a difference?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Psychosomatic Research	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jpsychores.2021.110658	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Noguchi T, Nakagawa T, Komatsu A, Ishihara M, Shindo Y, Otani , Saito T	4. 巻 -
2. 論文標題 Social functions and adverse outcome onset in older adults with mild long-term care needs: A two-year longitudinal study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.archger.2022.104631	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Noguchi T., Ishihara M, Murata C, Nakagawa T, Komatsu A, Kondo K, Saito T	4. 巻 -
2. 論文標題 Art and cultural activity engagement and depressive symptom onset among older adults: A longitudinal study from the Japanese Gerontological Evaluation Study (JAGES)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Geriatric Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/gps.5685	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nakagawa T, Noguchi T, Komatsu K, Ishihara M, Saito T	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 Aging-in-place preferences and institutionalization among Japanese older adults: a 7-year longitudinal study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Geriatrics	6. 最初と最後の頁 66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12877-022-02766-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi T, Murata C, Hayashi T, Watanabe R, Saito M, Kojima M, Kondo K, Saito T	4. 巻 76(2)
2. 論文標題 Association between community-level social capital and frailty onset among older adults: a multilevel longitudinal study from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology & Community Health	6. 最初と最後の頁 182-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/jech-2021-217211	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishihara M, Saito T, Sakurai T, Arai H	4. 巻 36(6)
2. 論文標題 Sustained mood improvement by the positive photo appreciation program in older adults	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Intl J Geriatr Psychiatr	6. 最初と最後の頁 970-971
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/gps.5493	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林江理香, 原田謙, 斎藤民	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 都市部の中高年就労者における地域活動への参加：仕事特性および主観的ウェルビーイングとの関連	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 老年社会科学	6. 最初と最後の頁 36-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takasugi T, Tsuji T, Hanazato M, Miyaguni Y, Ojima T, Kondo K	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 Community-level educational attainment and dementia: a 6-year longitudinal multilevel study in Japan.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Geriatr	6. 最初と最後の頁 661
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-021-02615-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyaguni Y, Tabuchi T, Aida J, Saito M, Tsuji T, Sasaki Y, Kondo K	4. 巻 11
2. 論文標題 Community social support and onset of dementia in older Japanese individuals: a multilevel analysis using the JAGES cohort data.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e044631
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/ bmjopen-2020-044631	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murata S, Ono R, Sugimoto T, Toba K, Sakurai T	4. 巻 35(1)
2. 論文標題 Functional Decline and Body Composition Change in Older Adults With Alzheimer Disease: A Retrospective Cohort Study at a Japanese Memory Clinic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Alzheimer Dis Assoc Disord	6. 最初と最後の頁 36-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/WAD.0000000000000426	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊良太、辻大士、井手一茂、林尊弘、斎藤民、尾島俊之、近藤克則	4. 巻 68(3)
2. 論文標題 地域在住高齢者における社会参加割合変化: JAGES6年間の繰り返し横断研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 厚生学	6. 最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斎藤民	4. 巻 26
2. 論文標題 高齢者の豊かな社会関係づくりを通じた介護予防	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生きがい研究	6. 最初と最後の頁 23-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 高杉友, 近藤 克則	4. 巻 42(3)
2. 論文標題 日本の高齢者における生物・心理・社会的な認知症関連リスク要因に関するシステマティックレビュー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年社会科学	6. 最初と最後の頁 173-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ling Ling, 辻大士, 長嶺由衣子, 宮國康弘, 近藤克則	4. 巻 67(11)
2. 論文標題 高齢者の趣味の種類および数と認知症発症 JAGES6年縦断研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本公衆衛生雑誌	6. 最初と最後の頁 800-810
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugimoto T, Ono R, Kimura A, Sakai T, Saji N, Niida S, Toba K, Sakurai T	4. 巻 76(3)
2. 論文標題 Impact of frailty on activities of daily living, cognitive function, and conversion to dementia in older adults with mild cognitive impairment	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Alzheimers Dis	6. 最初と最後の頁 895-903
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/JAD-191135	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Saito T, Oksanen T, Shirai K, Fujiwara T, Pentti J, and Vahtera J	4. 巻 -
2. 論文標題 Combined effect of marriage and education on mortality: A cross-national study of older Japanese and Finnish men and women	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Saito T, Cable N, Aida J, Shirai K, Saito M, Kondo K	4. 巻 19(10)
2. 論文標題 Validation study on a Japanese version of the 3-item UCLA Loneliness scale among community-dwelling older adults	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 1068-1069
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13758	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishihara M, Saito T, Sakurai T, Osawa A, Ueda I, Kamiya M, Arai H	4. 巻 19(10)
2. 論文標題 Development of the Positive Photo Appreciation for Dementia (PPA-D) program for people with mild cognitive impairment (MCI) and early-stage Alzheimer's disease: a feasibility study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 1064-1066
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13739	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斎藤民, 近藤尚己	4. 巻 75(10)
2. 論文標題 高齢化する大規模団地での保健活動 そのチャンスと課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 816-821
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件(うち招待講演 3件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Komatsu A, Nakagawa T, Noguchi T, Saito T
2. 発表標題 Involvement in Decision-Making for Daily Care and Cognitive Decline among Older Adults Who Need Care in Japan
3. 学会等名 Gerontological Society of America 2021 Annual Scientific Meeting
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakagawa T, Noguchi T, Komatsu A, Ishihara M, Saito T
2. 発表標題 Trajectories of Functional Health Following Stroke: The Role of Social Resources
3. 学会等名 Gerontological Society of America 2021 Annual Scientific Meeting
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakagawa T, Noguchi T, Saito T
2. 発表標題 Prejudice and discrimination against people with dementia
3. 学会等名 The 15th International Congress of the Asian Society Against Dementia
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 斎藤 民, 杉本大貴, 小野 玲, 中川 威, 野口泰司, 小松亜弥音, 内田一彰, 黒田佑次郎, 荒井秀典, 櫻井 孝
2. 発表標題 家族の介護負担感と認知症者の死亡リスク：もの忘れ外来患者コホート（NCGG-STORIES）
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 斎藤民、中川威、野口泰司、小松亜弥音、石原真澄、小野玲
2. 発表標題 認知症者の社会参加と死亡リスク：もの忘れ外来患者コホート（NCGG-STORIES）
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 斎藤民
2. 発表標題 独居高齢者の健康と生活像：社会老年学における知見から
3. 学会等名 第32回日本老年学会総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野口泰司, 藤原聡子, 鄭丞媛, 井手一茂, 斎藤民, 近藤克則, 尾島俊之
2. 発表標題 高齢者・認知症にやさしいまち指標と健康・幸福の関連：JAGES横断研究
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野口泰司, 小野玲, 中川威, 石原眞澄, 小松亜弥音, 斎藤民
2. 発表標題 認知症者における行動心理症状と予後の関連：NCGG-STORIES
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野玲, 櫻井孝, 杉本大貴, 内田一彰, 小松亜弥音, 野口泰司, 中川威, 荒井秀典, 斎藤民
2. 発表標題 病型別にみたもの忘れ外来受診者の生命予後と死亡原因
3. 学会等名 第40回日本認知症学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清家 理, 竹内さやか, 萩原淳子, 猪口里永子, 伊藤真奈美, 天白宗和, 溝神文博, 鈴木宏和, 堀部賢太郎, 斎藤 民, 武田章敬, 櫻井孝, 荒井秀典
2. 発表標題 MCIまたは認知症を有する人と家族介護者への心理社会的教育支援プログラムのRCT-Pilot study-
3. 学会等名 第40回日本認知症学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉本大貴, 櫻井孝, 小松亜弥音, 野口泰司, 中川威, 木村藍, 小野玲, 斎藤民
2. 発表標題 認知症患者の希望する死亡場所と実際に関する実態調査
3. 学会等名 第10回日本認知症予防学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤大介, 斎藤民, 近藤克則
2. 発表標題 地域在住高齢者における地域包括支援センター等の相談機関への援助要請と抑うつとの関連：地域生活課題の重篤化予防の観点から：JAGES 横断研究
3. 学会等名 日本老年社会学会第63回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福定正城, 斉藤雅茂, 近藤克則, 斎藤民
2. 発表標題 高齢者の被対面交流と精神的健康との関連：JAGES2019横断研究
3. 学会等名 日本老年社会学会第63回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中川威, 野口泰司, 小松亜弥音, 石原真澄, 斎藤民
2. 発表標題 心疾患罹患に伴う人生満足度の変化
3. 学会等名 日本老年社会科学会第63回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小松亜弥音, 中川威, 野口泰司, 石原真澄, 斎藤民
2. 発表標題 在宅要介護高齢者における介護への意思決定関与に関連する要因の検討
3. 学会等名 日本老年社会科学会第63回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉本大貴, 櫻井孝, 野口泰司, 小松亜弥音, 中川威, 植田郁恵, 大沢愛子, 李相侖, 小野玲, 斎藤民
2. 発表標題 もの忘れ外来受診者における生命予後の予測モデルの作成
3. 学会等名 第63回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ling Ling, 辻 大士, 井手 一茂, 王 鶴群, 近藤 克則
2. 発表標題 趣味をグループで行う人は、一人で行う人より認知症発症リスクは低いのか? JAGES2010-2016 6年間の縦断研究
3. 学会等名 日本老年社会科学会第63回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤民, 原田謙, 小林江里香
2. 発表標題 大都市中高齢者における住居形態と座位時間との関連
3. 学会等名 第62回日本老年社会科学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林江里香, 原田謙, 齋藤民
2. 発表標題 仕事の特性と地域活動への参加: 大都市の中高年就労者の分析から
3. 学会等名 第62回日本老年社会科学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤民, 近藤克則, 尾島俊之, 金子惇
2. 発表標題 在宅要介護者における閉じこもり・社会的孤立発生状況とその関連要因
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野口泰司, 石原眞澄, 村田千代米, 近藤克則, 齋藤民
2. 発表標題 芸術・文化的活動と抑うつ発生との関連: JAGES 縦断研究
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤原 聡子, 宮國 康弘, 辻 大士, 近藤 克則
2. 発表標題 高齢者の社会的ネットワークと認知症リスクとの関連 JAGES6年間縦断研究
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井手 一茂, 辻 大士, 金森 悟, 渡邊 良太, 飯塚 玄明, 近藤 克則
2. 発表標題 高齢者の地域組織参加の種類別頻度と認知症発症の関連 JAGES2010-2016縦断研究
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tami Saito
2. 発表標題 Studies on social relationship factors of incident dementia using the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES) data
3. 学会等名 ESRC Workshop: Cognitive ageing and dementia: Perspectives from the UK and Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tami Saito, Chiyo Murata, Masashige Saito, Katsunori Kondo
2. 発表標題 Availability of informal and formal supports and their correlates among Japanese older men and women
3. 学会等名 The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Murata C, Nakamura H, Saito T
2. 発表標題 A pilot intervention to promote psychological well-being among older persons in Japan
3. 学会等名 The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斎藤民
2. 発表標題 認知症等による高齢者の行方不明の動向
3. 学会等名 第9回日本認知症予防学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishihara M, Saito T, Sakurai T, Osawa A, Ueda I, Kamiya M, Arai H
2. 発表標題 Assessment of the Feasibility of a Positive Art Program for Dyads of People with Dementia and their Caregivers
3. 学会等名 The 6th World Congress on Positive Psychology(WCPP) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斎藤民, 村田千代栄, 斎藤雅茂, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者の受援力とその関連要因: 困りごと相談相手に基づく類型化とその特徴
3. 学会等名 第61回日本老年社会科学学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	近藤 克則 (Kondo Katsunori) (20298558)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・老年学・社会科学 科学研究センター・部長  (83903)	
研究分担者	村田 千代栄 (Murata Chiyoe) (40402250)	東海学園大学・健康栄養学部・教授  (33929)	
研究分担者	櫻井 孝 (Sakurai Takashi) (50335444)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・病院・副院長  (83903)	
研究分担者	小野 玲 (Ono Rei) (50346243)	神戸大学・保健学研究科・准教授  (14501)	
研究分担者	石原 眞澄 (Ishihara Masumi) (70759597)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・老年学・社会科学 科学研究センター・研究員  (83903)	
研究分担者	中川 威 (Nakagawa Takeshi) (60636942)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・老年学・社会科学 科学研究センター・主任研究員  (83903)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	University College London			
フィンランド	Turku University			